

ボランティアさんに いろいろ聞いてみよう!



今回は、「手話」のボランティア団体『手話サークル みち』（平成11年12月3日に立ち上げ、9名の会員で活動中。みち（道）はどこかにつながっていて、どこまでも広がっていることが、サークル名の由来になっているそうです。）の代表者 大澤 裕貴子（おおさわ ゆきこ）さんに、話を伺いました。



社協：どんな活動をされているか、教えてください。

大澤さん

大澤さん：手話講習会や、聴覚に障がいを持っている方との交流を行っています。内部の勉強会では、インターネットも活用しています。



社協：勉強会もされているんですね。初心者の方は、どうやって手話を覚えていくんですか？
50音の、あいうえお…を表す「指文字」からですか？

大澤さん：いいえ。手話で「あいさつや自己紹介をする」ことから始めます。まずは、日常生活で使えるものから覚えて、その後、指文字や単語、文法を覚えていきます。

突然ですが、クイズです。この手話は何を表すでしょうか？ヒントは、旅行などで行く場所で、立てた3本の指は「湯気」を表現しています。

（ちなみに、①だけで、指文字では「ゆ」と読みます。よく見ると③は、あのマークに見えます。正解は、このページの下にあります。）



社協：どんどん新しい言葉（新語や流行語）が生まれますが、そもそも、手話の単語は、だれが作っているんですか？

大澤さん：日本手話研究所で、専門家が作っています。毎年約300語も、新しい手話が生まれているんですよ。
ちなみに、「令和」という手話は、つぼみから花が開く様子を表現したもので、年号発表の翌日にはできあがっていました。



クイズの正解は、「温泉」です。温泉の地図記号「♨」と、体を洗う様子を表すような手話になっています。



社協：「表現」という部分に注目するのも、おもしろいですね。では、言葉に込められた「感情」は、どう表現してるんですか？



大澤さん：表情、手の動き（速さや力強さ）で表現します。他にも、絵本を手話で読み聞かせるときには、体の向きを変えたりして、1人で何役も演じます。まるで落語家さんみたいでしょ？（笑）

『あなたの手話で、話の内容がよく分かったよ!』

と伝えられ、「手話で伝えるという役目を果たせたことが、とてもうれしかった!」というエピソードを話してくださいました。「ありがとう」という感謝の言葉とは違った喜びを感じたそうです。

この話からも、「みち」のみなさんの手話に対するひたむきな姿勢を感じました。最後に、「みなさんに覚えてほしい!」と紹介された手話があります。簡単ですので、ぜひ覚えてみてください。



【こんにちは】(あいさつ)



右手の人差し指と中指を立て、額にあてます。



胸の前で人差し指を向かい合わせ、両方の指先を曲げます。



ポイント

顔を時計に見立て、額にあてた2本の指で、時計の針が12時（昼）を指している様子を表します。
次に、人差し指を曲げる動作で、おじぎをする様子を表します。

【危ないので一緒に逃げましょう】(災害など、危険が迫っている時)



右手の指全てを曲げ、指先で胸をトントンと2回たたきます。



両手の人差し指を中央で合わせます。



体を横に向け、逃げる様なポーズを取ります。

ポイント

胸をたたき、胸が締め付けられるような不安な気持ちを表します。
次に、離れた人差し指をくっつけることで、人が寄り添うことを表します。
最後は、「非常口」で見かける、「避難する人の姿」を表すことで、逃げることを伝えます。